

## 第 2 回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成 27 年 6 月 9 日（火） 13:00-15:00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、薬師寺座長代理、市川委員、小野田委員、倉本委員、藤井委員、松本委員、山崎委員

(2) 政府側

中村宇宙戦略室審議官、内丸宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学・探査について

資料 1、資料 2 に基づき JAXA から説明を行った。また事務局より資料 3 及び参考資料等に基づき説明を行った。これらを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、○質問・意見等、●説明者等回答)

[公募型小型計画について]

○小型月着陸実験機(SLIM)に期待している。

○我が国として月着陸・探査技術を蓄積し、将来の月における本格的な開発等につながるようにすべき。

[戦略的中型計画について]

○火星衛星のサンプルリターンは挑戦的な取組であり、強く期待している。一方で、色々なシナリオを検討しながら、目標設定をした方が良いのではないか。

○火星衛星サンプルリターンを選定するのであれば、ボトムアップの提案により、先行して検討されている他のミッションとの関係を踏まえながら、コミュニティへの丁寧な説明が必要ではないか。

●良い提案であることをしっかりとコミュニティに説明したい。

○火星衛星サンプルリターンミッションを立ち上げる際には、ミッション全体を引っ張っていく人材をしっかりと確保すべき。

○火星衛星探査計画の目標として、生命現象の解明が目立っているが、科学的目的のポイントを明確にすべき

○サンプルリターンがキーワードとなっているが、火星衛星のミッションの後にも重力天体のサンプルリターンを目指すのか。

●現時点では具体的な回答は難しいが、プログラム化の考え方も踏まえて、次の計画のイメージを考えていきたい。

- 火星衛星探査計画を評価する。この計画を通じて若手を中心とする新しいコミュニティを形成してほしい。
- ミッションを進めるに当たっては、国際協力にも留意すべき。

[多様な小型プロジェクトについて]

○ESA が主導している木星氷衛星探査計画 (JUICE) への機器の相乗りは効率的であり、是非進めるべき。

○JUICE の観測ミッションには、日本の実績のある優れたチームが参加予定となっており、その役割が期待される。

[宇宙探査イノベーションハブ]

○人材育成には JAXA、文部科学省がしっかりサポートすべき。

○宇宙探査イノベーションハブは民間企業との連携が中心との説明があったが、各大学や研究機関も参加できるよう期待している。

○人材に関わる取組は時限的にではなく長期的に取り組むべき。

○宇宙探査イノベーションハブが宇宙科学研究所の機能と競合することのないように、取組を進める一方で、関連する技術とは有効に連携すべき。

これらの案件については、委員からの意見や指摘を踏まえながら、JAXA において今後も引き続き概算要求を目指した検討を進めていくこととされた。

以 上